

名商医療支援基金 初助成は広陽商工

車いす用雨具開発

名古屋商工会議所が医療分野のベンチャー企業支援を目的に創設した基金による助成の第一号として、車いす用のレインコート開発を目指す広陽商工(愛知県春日井市)が選ばれた。名古屋市内で三日、基金の運用金三千万円を寄付した医療機器メーカー、東海メディカルプロダクツ(春日井市)の筒井宣政会長

が、広陽商工の三尾友貴美取締役兼二十万円の交付証を手渡した。

自動車部品などの試作を手掛ける広陽商工は、車いすの背中部分に酸素ボンベを装着した場合でも着やすいレインコートの開発に協力会社と取り組んでいる。三尾氏は「試作で培ったデザイン力を生かし、車いすを利用する方が明るい気持ちで出掛けられるコートを作りたい」と話した。筒井氏は「会社を立ち上げた時は開発費に苦労した。基金で負担を少しでも軽くできれば」と実用化に期待を寄せた。

筒井宣政基金第1号 交付先に「広陽商工」

メディカル・
デバイス産振協

メディカル・デバイス産業振興協議会(三矢誠代表理事)名古屋商工会議所副会頭、トヨタ自動車顧問)は3日、名古屋市中区の同所で2019年度総会を開催した。昨年創設した「筒井宣政基金」の第1号交付



筒井氏(左)から広陽商工に
交付証を手渡した

先として自動車部品の試作品製作を手掛ける広陽商工

(本社春日井市)を選び、
交付証を贈呈した。

同基金は、同協議会の幹事長を務める東海メディカルプロダクツの筒井宣政会長の寄付を基に創設。医療機器の開発など取り組む企業を対象に交付する。

広陽商工は、車いす用レインコートの開発を進めており、使いやすさとデザイン性を重視して取り組んでいる。